

東日本大震災・原子力災害からの早期復興 安全と安心を大きな夢につなげる「福島へのそのまち」本宮

はじめに

本宮市は、福島県のほぼ中央に位置し、西側には安達太良山を望み、阿武隈川や五百川、安達太良川など多くの川が流れていることから「みずいろのまち」としても知られています。会津街道の起点でもあります。古くは三春街道、相馬街道が交差する宿場町として、いにしえより交通の要衝として栄えてきました。

現代においても東北自動車道・本宮インターチェンジを有し、磐越自動車道と交差する郡山ジャンクションに最も近接していることから、「陸の港」としての優れた立地条件を生かし、未来に向けての成長を目指すまちです。

しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東

京電力福島第一原子力発電所の事故を誘発し、かつて経験したことのない大きな被害をもたらしました。震災から早くも3年が経過しましたが、いまだに原子力災害は

市民の健康不安や風評被害による影響を残しています。本年度も引き続き復旧・復興に全力を傾注するとともに、市民との情報共有と組織の横断的なネットワークにより敏感に社会のニーズをとらえ、必要性や優先度を総合的に判断しながら、次の3点を重点プロジェクトと位置付け、効果的な施策・事業の展開を目指します。

未来につなげる 「震災・災害からの復興」 プロジェクト

本市は、震災直後から「震災・原子力災害復興計画」と「除染実施計

画」に基づき、災害からの早期復興に向けた取り組みを最優先に進めてまいりました。現在は、放射線による健康不安の解消のため、住宅除染作業の真っ最中ですが、並行して中間貯蔵施設の設置を見据えた上で地区単位に仮置場の整備を進めており、さらには、市道および水路の除染にも着手したところでです。

また、市民の皆さんの内・外部の被ばく検査を継続的に進めるとともに、子どもたちの運動機会の確保と体力の向上を促進するため、屋内遊び場スマイルキッズパークを整備しました。本年度は、子どもたちに自然の中の遊びを通して、「冒険心」や「探究心」を高めてもらい、将来を担う子どもたちの豊かな人間形成の土台づくりとなる場を提供するため、「屋外遊び場



本宮市イメージキャラクター
まゆみちゃん

の整備を進めスマイルキッズパークの拡充を図ります。

このような中、さまざまな課題に直面しながらも、市民の皆さんのご理解とご協力の下、一つ一つ解決しながら前進しているところ

定住促進につなげる 「住みよいまちづくり」 プロジェクト

持続的な定住促進を図るため、「福島へのそのまち・もとみや」としての地の利を生かしながら、企業誘致による雇用の創出や本宮駅東西自由通路・西口広場および五百川駅を含めた駅周辺環境整備などをはじめ、子育て支援、教育、生涯学習、健康、福祉、産業、住



「屋内遊び場スマイルキッズパーク」砂場での子どもたち

また、本市には88社の企業が進出しており地域経済の活性化に大きく貢献いただいていたものの、震災直後の市内工業の製造出荷額は、震災の影響により

環境、自然環境、消防、防犯、交通などあらゆる分野で総合的・効果的な施策・事業を展開します。
重点事業としては、1つに、本年度から、子育て支援策と少子化対策の一環として、子育て中の世代を支援するため、幼稚園と保育所の保育料の一部無料化を行います。2つには、児童生徒の学習環境の向上と健康保持のため、市立小・中学校全校の教室にエアコンの設置を行います。3つには、納税者などの利便性と収納率の向上を目的に、コンビニ収納の取扱対象を7科目から16科目に拡大します。この3事業を定住促進重点施策として位置付け、住んでみたい、住んでよかったと思える夢と希望と活気に満ちた住環境整備を進めます。

また、本市には88社の企業が進出しており地域経済の活性化に大きく貢献いただいていたものの、震災直後の市内工業の製造出荷額は、震災の影響により

大幅に減少しましたが、現在は震災前の額に回復しつつあります。さらには、震災後も10社の企業が市工業団地に進出したこと、復興に向けての大きな活力と元気につながるものと期待しています。
「災害に強いまちづくり」プロジェクト
本市は、東日本大震災をはじめ、これまでの災害の経験を踏まえ、教育施設などの耐震化、阿武隈川本築堤、雨水対策、橋梁の長寿命化などの事業を推進するとともに、本宮市地域防災計画に基づき、防災・減災体制の強化を図るなど、安全で安心して暮らせる「災害に強いまちづくり」を進めています。
平成23年7月には友好都市の埼玉県上尾市と、平成24年1月には全国へそのまち協議会加盟の全国7自治体と「災害時相互応援に関する協定」を締結し、さらには、市内企業をはじめ多数の民間企業とも「災害時応援協定」を締結させていただき災害時の相互の応援協力関係を構築することができました。
また、平成25年9月には、町村合併後、本宮市として初めて総合



本宮市長
高松義行

〔市町村合併〕平成19年1月1日、本宮町と白沢村が合併

プロフィール

- ◆ 面積 87・94 km²
- ◆ 人口 3万1009人
- ◆ 世帯数 1万12世帯

〔将来都市像〕「水と緑と心が結びあう 未来に輝くまち もとみや」

〔まちの特徴〕「福島へのそのまち・もとみや」は、福島県の中央部に位置し、高速交通網が結節する交通の要衝としての特性を生かし、工業を基幹とした商業と農業のまち



〔特産品〕米、本宮烏骨鶏、とろろ芋、しらさわ宝漬、芋焼酎さわうらら、味噌、麴、とろろラーメン、清酒
〔観光〕蛇の鼻遊楽園、岩角山、高松山、塩ノ崎の大桜、日輪寺の枝垂れ桜、アサヒビール福島工場（ビール園）
〔イベント〕本宮市夏まつり、もとみや秋祭り、しらさわ秋祭り、岩角山大梵天祭、八ッ田内七福神舞、高松山観音寺初寅祭、太々神楽

防災訓練を国・県をはじめ、自衛隊、警察、消防関係機関、町内会、各企業、埼玉県上尾市など多くの関係者の協力をいただき、複合災害を想定して実施しました。改めて日ごろからの備えの大切さと地域防災コミュニティの重要性を市民と共有し認識できた有意義な訓練となりました。
今後も、大規模災害に備えるた



「本宮市総合防災訓練」での消火訓練

め、定期的に防災訓練を実施し、市民の防災意識の高揚を図ってまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

10年先を見据えて、佐倉市の価値 魅力を高めるまちづくりを

はじめに

佐倉市は、東京から東に40kmと首都近郊に位置しながら緑が多く、上下水道他の生活基盤が整備され、さらに、成田空港にも程近く、東関東自動車道の佐倉インターチェンジやJR東日本、京成電鉄など交通網も整っています。

また、本市は、古くから交通の要衝であり、北総の拠点として栄えてきました。近世には幕府の有力者が代々の藩主を務めた歴史を持っています。

印旛沼やその周辺の谷津田、里山などの豊かな自然にあふれ、また、日本百名城の佐倉城跡とそこから東に広がる台地上には国立歴史民俗博物館、国指定重要文化財の旧堀田邸、武家屋敷、佐倉順天堂記念館など歴史と文化のまちを

感じさせる場所が多数あります。

幕末において「好學進取」の気風を重んじた佐倉藩では、学問が奨励され盛んであったことから、幕末から明治に掛けて、日米修好通商条約の締結に向けて尽力した幕府老中・堀田正睦、わが国日本の近代医学の発展に重要な役割を果たした佐倉順天堂の蘭医・佐藤泰然、洋画家・浅井忠、日本の道徳教育の先駆者・西村茂樹ら、各界にきら星のごとく偉人を輩出しています。

近年では、オリンピッククメダリストや著名なアーティストも本市から出ており、果敢な進取性と優れた先見性の息吹をはぐくむ風土は現在にも引き継がれています。

価値・魅力を高める

まちづくり

日本社会全体で人口減少・超高

齢化が進む今日、市の活性化を図るためには人口を維持することが重要となっていることから、「第四次佐倉市総合計画」の前期基本計画では、「住み続けたい」「訪れたい」「住んでみたい」まちづくりを重要施策とし、「思いやりと希望にみちたまちづくり」を掲げ、市民が、安心して子どもを産み育てられ、子育てしやすいまちを目指してさまざまな施策に取り組んでいるところで

特に、保育園の待機児童問題については、喫緊の課題として取り組み、民間保育園の誘致や、老朽化した公立保育園の建て替えなどにより、認可保育園の定員の拡大を図っています。平成24年12月より、病後児保育事業を開始し、現在、市内3カ所で実施しています。また、首都直下地震などを想定し、

市民生活の安全安心の確保を図るため、情報伝達手段の多様化、小中学校施設の耐震化を進め、対策が必要な小中学校のうち、残りの15校22棟を早期に完了させることを目指しています。

また、印旛沼周辺地域の活性化を進めることとしています。オランダ風車のある湖畔の佐倉ふるさと広場では、この春には60万球のチューリップが咲きそろう、夏には花火大会など市民の憩いの場となっています。貴重な原種のバラ



色とりどりのチューリップが咲きそろう春の「佐倉ふるさと広場」

をそろえた「佐倉草ぶえの丘バラ園」は国際的な評価を得ています。

平成25年、本市出身の長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督が国民栄誉賞を受賞したことを機に、岩名運動公園の野球場を長嶋茂雄記念岩名球場へと改称しました。今後はその改修整備を行い、野球少年があげられる球場にしたいと思っています。球場に隣接する岩名陸上競技場は、小出義雄監督が指導する陸上選手たちの練習拠点であり、さらに、本年4月に完成する球技場では、イタリアACミランによる少年サッカースクールを、年間を通じて開催することになっていくなど、今後、岩名運動公園は、全国的にも注目されるスポーツの



今後スポーツの拠点となることが期待される「岩名運動公園」

拠点となっていくことが期待されます。このように、佐倉市の価値・魅力を高めていきたいと考えています。

ファシリテイマネジメントの推進

一方、今後中長期的には人口の高齢化などにより厳しい財政状況が見込まれることから、何よりも、鋭いコスト感覚を持つて事業展開していくことが必要となります。特に、大きな経費を要する施設の更新や維持補修費などについては、効率的な運営を図ることにより、全体経費の節減を推進していくことが必要となります。本市では、平成19年度から、土地・建物・設備などを対象として、経営的な視点から設備投資や管理運営を行う「ファシリテイマネジメント（FM）」を推進してきました。FMを推進するための組織として、土地、建物、情報を一元的に管理するための市長直轄の組織である資産管理経営室を設置し、取り組みを進めています。

①市有建物の情報を一元的に管理するシステムの導入によるデータ活用、②ESCO事業、PPS

導入などによる光熱水費の削減、③大学との共同研究による施設の複合化など、実践にこだわったFMを推進することにより、コスト削減や新たな歳入の確保に一定の成果がありました。こうした取り組みは、全国の自治体などの注目を集め、視察が相次いでいます。佐倉市が活力ある都市として持続するためには、こうした取り組みを含め、さらなる行政改革に努める必要がありますので、平成25年、

プロフィール

- ◆面積 103・59km²
- ◆人口 17万5559人
- ◆世帯数 7万3041世帯

〔将来都市像〕歴史・自然文化のまち
「佐倉」への思いをかたちに

〔まちの特徴〕印旛沼の南に位置する、水と緑に恵まれた自然環境と豊かな歴史文化のあるまち

〔特産品〕米、米粉、やまといも、ト



佐倉市長
藤 和雄



第5次となる行政改革大綱を策定しまして、行政改革に着手したところです。

むすびに

今後も、将来の市民に佐倉市を選んで良かったと思っていただけのように、10年先を見据え、本市の強みを生かし、佐倉市の価値や魅力を高め、それにより、中規模でも品格のあるまちにする努力を続けていきたいと考えています。

マト、落花生、佐倉井
〔観光〕国立歴史民俗博物館、佐倉城址公園、佐倉ふるさと広場、D1C川村記念美術館、佐倉武家屋敷、旧堀田邸、佐倉順天堂記念館
〔イベント〕佐倉城址のさくら、佐倉チューリップフェスタ、佐倉市民花火大会、佐倉の秋祭り、佐倉・時代まつり、佐倉朝日健康マラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

芭蕉・忍者のふるさと 秘蔵の国・伊賀

はじめに

三重県の北西部に位置する伊賀市は、東西約30km、南北約40kmの広さで、北は滋賀県甲賀市、西は京都府の南山城村、奈良県の奈良市、山添村と接し、京阪神、中京の2大都市圏へはそれぞれ約1時間の距離です。

北東部を鈴鹿山系、南西部は大和高原、南を室生火山群と、四方を山々が取り巻いています。この伊賀盆地で400万年前に琵琶湖が誕生しました。盆地内では古くから米作りが行われ、3年連続特Aランクをいただいている「伊賀米コシヒカリ」の産地です。近年では丘陵地などを開発し、住宅団地等も形成されています。

また、水系は大阪湾に流れ込む淀川の流域であり、近畿圏域の水源

地となっています。当地域を取り巻く森林は地域の景観を形成するとともに、水源かん養、水質ろ過などの公益的機能を発揮しています。

市内には京都・奈良や伊勢を結ぶ大和街道・伊賀街道・初瀬街道を有し、古来より都（飛鳥、奈良、京都など）に隣接する交通の要衝として発展しました。また江戸時代には藤堂高虎によって秘蔵の国と呼ばれ、伊賀上野は城下町として、南部の青山地区は伊勢神宮への参宮者の宿場町として栄えました。そして、そのような地理的・歴史的背景から京・大和文化の影響を強く受けながらもこの地域独自の文化を醸成してきました。

伊賀流忍者と俳聖松尾芭蕉

毎年4月上旬からの約1カ月は、市の窓口をはじめ金融機関や商店

などの皆さんが忍者衣装を身にま

とい、「街中忍者がいっぱい」の仕掛けで「伊賀上野NIJAJAフェスタ」を盛り上げます。県内外から観光に来られたお客さまも、まずは「忍者変身処」で本物の忍者衣装に着替えることからフェスタの楽しみが始まります。そして忍者になりきって観光名所を回ったり、市街地の「まちかど忍者道場」を巡って修行したり、城下町の町並みを味わいつつ日替わりイベントを楽しんだり、変身後の楽しみ方は十人十色です。期間中は、もはや国際語となった「NIJAJA」を多くの方に満喫していただいています。

また、旅に生き、旅に死んだ漂泊の詩人であり、わが国の詩歌史上に「俳諧」という庶民詩を確立した俳人・松尾芭蕉翁は1644年に伊

賀に生まれ、1694年10月12日に51歳で亡くなりました。翁の偉業を顕彰する芭蕉祭は、毎年その命日の式典をはじめ各種行事が上野公園を中心に市内各地で催され、伊賀の秋の風物詩となっています。平成26年は翁の生誕から370年目の節目に当たりますので、市民の皆さんと記念事業実行委員会を組織してイベントの実施などに取り組んでいます。また、生誕地の責務として「俳句・俳諧と芭蕉の世界」として世界遺産への登録も進めていきたいと考えています。

伊賀は関西

明治維新以降の歴史的な背景を受け、三重県は東海地域に属していますが、地理的条件や文化的背景から、「伊賀は関西」という考え方が古くから定着しています。その証しとして、例えば市内の河川はほとんど西に向かって流れており、淀川水系の木津川の上流に位置することから、ダムを含めた関係の国

家機関などの窓口はすべて近畿地方の管轄となっています。鉄道や道路は南北軸に比べ東西軸の幹線整備が進んだ結果、特に奈良県、大阪府との結びつきが強く、最近では新名神高速道路の開通により京都をはじめ、京阪神の各都市への所要時間が一層短縮されています。

テレビ番組も、アナログ放送時代には多くの家庭で大阪の放送を受信できていたものが、地上デジタル完全移行で慣れ親しんできた番組を視聴できなくなる心配がありました。しかし、現在は地元のカブテレビで東海と近畿の両方の圏域の番組を見ることができ、これは、つながりの強い地域の情報を得たいという市民の希望の表れであると思います。ある調査で



毎年4月上旬から約1カ月間行われる「伊賀上野NINJAフェスタ」

は、伊賀地域在住者が地域外のニューズや生活情報を望むエリアは、三重県内の各市や名古屋よりも関西圏という回答がはるかに上回っています。

「伊賀は関西」は、自己を主張し、あるべき自らの姿を求める運動です。そして、それが地域の実態に合うからこそ活性化につながると考えています。

道州制と近畿市長会

道州制では東海や近畿といったこれまでの枠組みが維持される可能性は十分にあり、しかし、本市のような圏域の境界や県境に接する地域では、それに関して課題を抱えている自治体もあり、その行く末に大きな不安を抱く住民も多いためです。そうしたことから、平成25年度に近畿市長会での傍聴をお願いさせていただきましたところ、会長をはじめ関係の皆さまのご配慮のおかげを持ちまして、快く認めていただきました。今後も、より親密な関係を築きながら積極的な情報交換をお願いしてまいりたいと考えています。そして、将来的には東海市長会で運用しているオプザーバー制度への期待を込めて努力

してまいりたいと考えています。

そう遠くない時期に、新たな国のカタチを決める大きな変革がやってくるかもしれません。その際に大切なことは、いつ動きがあっても対応できるような事前の準備ができていくことです。国民的な関心事となるであろう道州制の流れ

プロフィール

- ◆面積 558・17km²
- ◆人口 9万6648人
- ◆世帯数 3万9216世帯

◆「将来都市像」 勇気と覚悟が未来を創る。ひとが輝く、地域が輝く、伊賀市

◆「まちの特徴」 人の営みと自然が共生する風光明媚な伊賀の地は、豊かな心を持つ人と文化を育みます

◆「市町村合併」 平成16年11月1日に、上野市・伊賀町・島ヶ原村・阿山町・大山田村・青山町の6市町村が対等合併

◆「特産品」 伊賀組紐〔国指定伝統的工芸品〕、伊賀焼〔国指定伝統的工芸品〕、伊賀牛、伊賀米、伊賀酒、漬物、か



伊賀市長 岡本 栄

の中で、広域交流は重要な位置を占めると考えています。そのときが来ればこの伊賀という地域をどうしていくのかということ、市民の皆さんと一緒に考えなければなりません。近畿市長会で交流させていただくことは、そのための準備の一つであると考えています。

たやき、和菓子、伊賀産菜種油、味噌・醤油

◆「観光」 伊賀流忍者博物館、だんじり会館、伊賀上野城、俳聖殿、芭蕉翁記念館、青山高原、伊賀焼伝統産業会館、伊賀の里モクモク手づくりファーム、伊賀の国大山田温泉さるびの、島ヶ原温泉・やぶつちや、ヒルホテルサンピア伊賀、伊賀まちかど博物館

◆「イベント」 伊賀上野NINJAフェスタ、上野天神祭〔国指定重要無形民俗文化財〕、芭蕉祭、正月堂修正会、余野公園つじ祭り、伊賀焼陶器まつり、上野城薪能、市民夏のにぎわいフェスタ



*面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

走る、走る、走る鳥栖

つき進むまち鳥栖

平成23年3月に全線開通した九州新幹線新鳥栖駅に降り立つと、目の前には標高132.9mの朝日山があります。ここは、桜の名勝として多くの市民が訪れる市民憩いの場ですが、この朝日山にある



サガン鳥栖のホームグラウンド「ベストアメニティストジアム」

290段の階段が、今、密かに注目されています。そこは、本市をホームタウンとするサガン鳥栖の選手たちのトレーニングの場所です。

この階段を上り下りする早朝トレーニングが、厳しいシーズンを戦い抜く、まさにサガン鳥栖の代名詞である「決して最後まであきらめないハードワークサッカー」の基礎をつくっています。

このトレーニングによって、J1の舞台で強豪チームと互角に戦える強い身体と、決して最後まであきらめず、果敢にチャレンジする強い心を養い、サガン鳥栖の活躍が市民に、そしてこの地域に大きな喜びと元気をもたらしてくれています。

決してあきらめないハードワークで地域を元気に。それは、本市のまちづくりにもつながるものがあります。

発展し続けるまち鳥栖

昭和29年4月の市制施行により、

人口約4万人でスタートした本市ですが、本年度で市制施行60周年を迎え、人口約7万1000人を数えます。全国的に人口減少が叫ばれる中、本市では今後も人口増の予測がされるなど、地方にあつて珍しい都市といえます。

本市は古くから長崎街道の宿場町として栄え、明治22年九州初の鉄道路線（現在の鹿児島本線）の開通に伴い鳥栖駅が設置されたことで、鉄道のまちとしての礎がつけられました。その後、昭和30年代から国道の整備拡充、九州縦貫、横断両自動車道の高速道路整備が進み、さらには、九州新幹線全線開通により、九州における交通結節点としての本市のポテンシャルは高まりました。

東洋経済新報社による「住み良さランキング」では9年連続で九州

1位となるなど、便利で元気のあふれる、魅力あるまちとして発展し続けています。

人々が集い、にぎわうまち鳥栖

本市では、この地の利を生かすために昭和29年に全国に先駆けて工場誘致条例を制定し、企業誘致を積極的に進めてきました。これまで市内6カ所に産業団地を造成し、延べ188社に進出していたが、製造品出荷額等は約3320億円（平成24年度）で九州有数の内陸工業・物流拠点都市となっています。

生活に便利で、近くに働く場所があることは人口増につながる大きな要素ですが、そのほかにも本市にしかない魅力があります。

本市はサッカーJ1サガン鳥栖とバレーボールV・プレミアリーグ女子に属する久光製薬スプリングスのホームタウンです。

サガン鳥栖のホームゲームが行

われるベストアメニティストアジアムは、毎試合市民をはじめ多くのサポーターが詰め掛け、熱気に包まれています。また、久光製菓スプリングスは、2012―13シーズンに女子バレーボール界史上初となる5冠を達成するなど、今や国内最強チームと言っても過言ではありません。

身近に国内最高峰の人気プロスポーツチームがあることは市民にとって大きな喜びであり、本市のイメージアップにもつながっています。

また、本市では、平成23年5月に日本で5番目、九州では初のクラシック音楽祭であるラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭を開催しました。九州各地、全国から3日間で本市の人口に匹敵する約6万9000人が集まり、一流のクラシック音楽を体感しました。翌年は2日間で約5万4000人、翌々年は2日間で約7万1000人を集客するなど、本市の魅力を高めるイベントになりました。

年間約500万人が訪れる鳥栖プレミアム・アウトレットは、休日ともなると遠くは中国・四国地

方からも買い物が詰め掛けるなど連日大変な賑わいを見せています。

このほかにも、日本人初となるミス・インターナショナル2012の吉松育美さんや2013世界陸上女子100m障害に出場の紫村仁美さんなど、本市出身で世界の舞台で活躍する人たちも次々に育っています。

新たな魅力で、 選ばれる鳥栖へ

現在、本市では東京都世田谷区、新潟県新発田市に次いで、九州では初めてとなる教科「日本語」の取り組み（平成27年度本格実施）を進めています。

将来を担う子どもたちには、確かな言語力と日本人としての価値観をしっかりと持つてもらいたいと思っています。そのためには、日本文化の理解や豊かな表現力、感受性を養うことが必要だと考え、教科「日本語」を導入することになりました。

また、本市には（独）産業技術総合研究所九州センターや佐賀県立九州シンクトロtron光研究センター、九州国際重粒子線がん治療

センター（サガハイマツト）があり、最先端の研究や医療が世界に向けて発信・提供されています。

市民、企業、団体などが、さまざまな分野で新たな挑戦を行って情報発信をしていくこと、そして子どもたちがそれらに直に触れる機会や産業、学術、文化、スポーツなど多様な分野の最良の体験をすることができるよう場をつくることで、「鳥栖にしかできない」まちづくりを進めます。

プロフィール

- ◆ 面積 71・73 km²
- ◆ 人口 7万1655人
- ◆ 世帯数 2万8437世帯

〔将来都市像〕住みたくなるまち鳥栖
「鳥栖スタイル」の確立

〔まちの特徴〕古くは長崎街道の宿場町として栄え、その後鉄道のまちとして発展。九州の鉄道、高速道路の結節点



鳥栖市長
橋本康志



〔特産品〕薬品、タイヤ、グリーンアスパラガス、マコモタケ
〔観光〕朝日山公園、九千部山（九州自然歩道）、四阿屋遊泳場、御手洗の滝沼川・河内河川プール
〔イベント〕まつり鳥栖、鳥栖山笠とす長崎街道まつり、ハートライトフェスタ、鳥栖市ロードレース大会、とす弥生まつり



高度で先駆的ながん治療を提供する「九州国際重粒子線がん治療センター」（サガハイマツト）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。